



Title	保健所の立場から
Author(s)	田中, 英夫
Citation	2025年度ストップ結核パートナーシップ関西 第13回ワークショップ「これからの結核対策を考える : 新しい退院基準にどう備えるか」. 2026, p. 27-29
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/104107
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2026年2月7日

ストップ結核パートナーシップ関西第13回ワークショップ
 これからの結核対策を考える
 ———新しい退院基準案にどう備えるか?———

大阪府守口保健所 田中英夫
 COIは有りません。

保健所の立場から——。

その前に、

- ・法19条、20条に基づく日本の結核の隔離入院の実情は？
- ・退院基準の適用条件の違いにより、退院後の再発率や実効再生産数（周囲への感染力）に違いはあるの？

1

1. 感染症法に基づく結核入院治療を受けた生存退院患者における
 在院日数の分布とその規定要因

（日本結核・非定型抗酸菌症学会誌「Kekkaku」の2025年11月号に掲載）

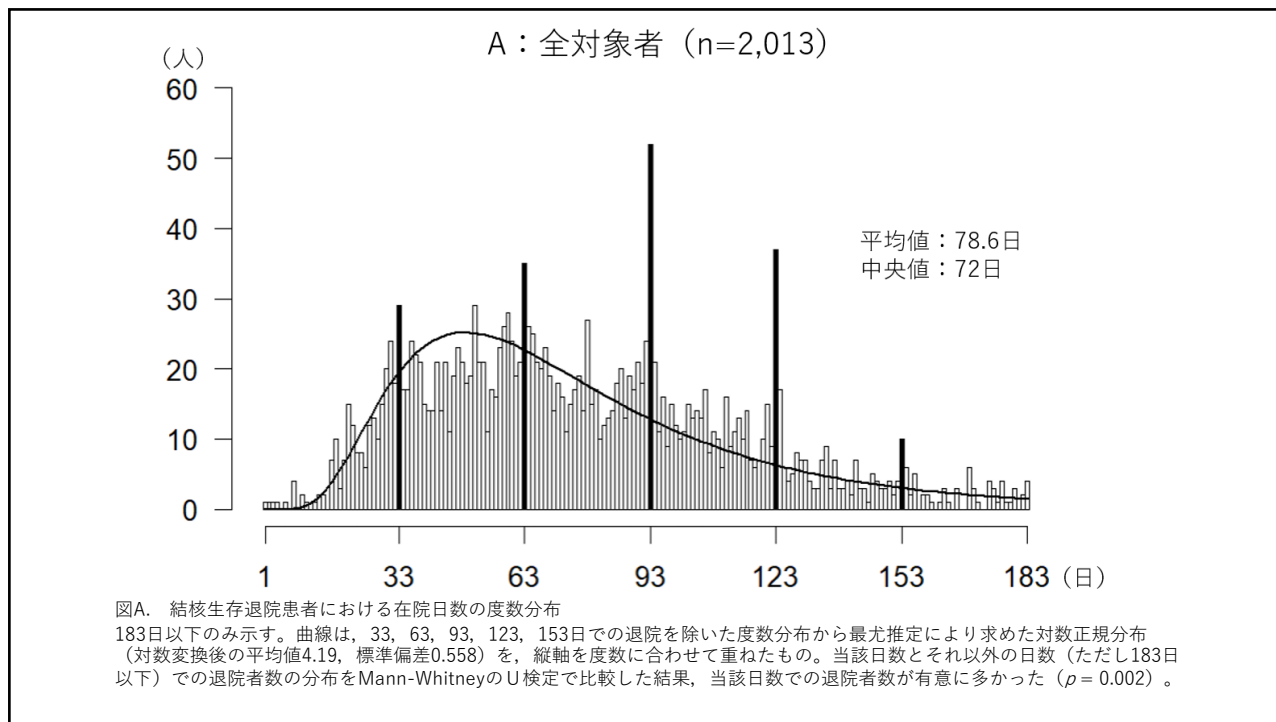
[目的] 日本の結核入院治療を受け、生存退院した患者の在院日数の分布とその規定要因を明らかにする。これにより、感染予防対策としての公益と、患者が受ける不利益とのバランスの在り方の見直しに資する情報を得る。

[方法] 対象は、全国36保健所が発生届を受理し感染症法に基づく結核入院治療を受けた患者のうち、診断が2018年4月～2022年3月で生存退院した2,013人。在院日数の度数分布を描き、関連要因ごとにその特徴を求めた。また、在院日数を従属変数として重回帰分析を行った。

参加保健所: 能代、伊勢崎、さいたま市、潮来、つくば、小田原、豊橋市、岐阜、岐阜市、関、西濃、茨木、高槻市、豊中市、枚方市、寝屋川市、四条畷、守口、大阪市、堺市、八尾市、東大阪市、藤井寺、富田林、和泉、岸和田、泉佐野、奈良市、和歌山市、徳島県三好、宮崎県中央、宮崎市、西之表、屋久島、沖縄県南部

計13の政令中核市を含む36保健所

2



3

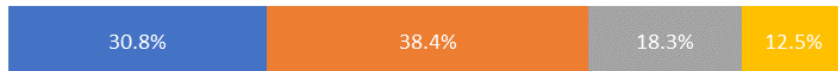
表. 結核生存退院患者における在院日数とその要因（重回帰分析）

年齢、出生国、コロナ禍か否か、入院前居所、認知症の有無、糖尿病の有無、病型、入院時最大塗抹、結核性胸膜炎合併の有無、RFPまたは多剤耐性の有無、培養連続陰性回数、入院した病院等を調整

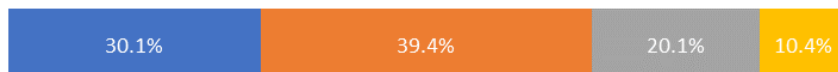
属性	平均値 (日数)	標準化回帰係数 (日)	標準化回帰係数の95%信頼区間
培養連続陰性回数			
0 回	52.6	reference	
1 回	74.2	14.0	6.6 - 21.3*
2 回	83.4	21.9	14.8 - 25.5*
3 回 以上	90.2	25.6	21.0 - 26.2*
入院した病院			
国立病院機構系	70.3	reference	
その他の公立病院	70.6	1.3	-3.0 - 5.6
その他	99.6	22.4	17.8 - 27.1*

4

Q4-5) 培養3回陰性確認を「結核菌を含む痰の消失」と見なし、これを退院基準に用いることに科学的根拠が存在する。



Q4-6) 培養3回陰性確認を「結核菌を含む痰の消失」と見なし、これを就業制限の解除基準に当てていることに、科学的根拠が存在する。



Q4-9) 入院患者が被る自由の制限を正当化するに足る公益（感染拡大防止）があることの科学的根拠が存在する。



■ とても・そう・少しそう思う ■ 分からない・何とも言えない
■ あまりそう思わない ■ そう・全くそう思わない

図2 患者の行動制限に対する科学的根拠が存在するかの設問に対する回答分布
(全国の保健所長を対象に2024年8月に実施したアンケート調査 n=279人、回答率59.6%)

5

2. 結核の退院基準でみた生存退院患者の再発率と実効再生産数

	期間内1回目の入院中に確認した 培養検査連続陰性回数			p-value
	0回	1回 or 2回	3回以上	
N	528人	308人	1,172人	—
在院日数の平均値(SD)	52.6日(42.5)	79.3日(34.7)	90.2日(41.4)	—
在院日数の中央値 *1	44日	73.5日	88日	p for trend < 0.001
再発者数(%) *2	10人(1.9%)	3人(1.0%)	10人(0.9%)	0.171
再発時の喀痰塗抹 1+以上の人数(%) *2	7人注2(1.3)	1人(0.3)	6人(0.5)	0.162
再発時の接触者調査 対象者数	14人	1人	10人	—
うちIGRA陽性者数 (≡実効再生産数)	0人	0人	0人	—

*1: Jonckheere-Terpstra検定 *2: Fisherの正確検定

注1: 確認した培養陰性回数が不明な1人を除く。注2: 「陽性」と回答のあった1人を含む。

6